

- 1 日時 令和4年12月9日(金) 【第1部】10:00~12:00
【第2部】13:30~15:30
- 2 会場 奈良県立教育研究所 中講座室1
- 3 参加者 学校・地域パートナーシップ事業における地域学校協働活動推進員等 計71名
- 4 内容 10:00~10:05/13:30~13:35 開会
10:05~11:55/13:35~15:25 情報交換・意見交流「協働活動の実施や体制づくりについて」
11:55~12:00/15:25~15:30 閉会

5 情報交換・意見交流の内容

【テーマ：協働活動の実施や体制づくりについて】

- 1 地推員等※として活動の情報交換
- 2 よりよい活動にするための意見交流



<グループ発表より(一部抜粋)>

- ・学校の地推員等ではなく、校区の地推員等であるという認識をもつことが大切だと思う。
- ・地推員等として、各種団体と積極的にコミュニケーションをとり、地域の方々と顔見知りの関係を築いていきたい。
- ・地域には素晴らしい技術をもった方がたくさんいるはずなので、そのような方々に活動に参加していただけるよう、地推員等がパイプ役になっていきたい。
- ・地域と学校がコミュニケーションをとり、信頼関係を築いた上で活動することが大切である。
- ・地推員等は、学校と地域が同じ目標をもって取り組めるように活動をコーディネートしていくことが大切である
- ・SNSを活用して地域に活動内容を発信するとともに、ボランティアの募集を呼びかけていくことも一つの方法である。
- ・ボランティア募集の際、地域の方に楽しいイメージをもってもらえるような名称を考えることも必要かもしれない。
- ・コロナ禍で活動が「できない」ではなく、「どのようにしたらできるのか」を考えていくことが大切である。
- ・活動を継続することが大切である。子どもたちに大人による無償の奉仕活動を見せることは、子どもたちの内面的な成長につながると思う。
- ・子どもが主体となるような活動にすることが大切である。
- ・「子どもたちのために」という気持ちは大切だが、まずは自分たちが活動を楽しむことが重要である。

※地推員等・・・地域学校協働活動推進員等

6 参加者の主な感想

- ・地域と学校が協働して子どもたちを育てる体制づくりが着々と進んでいると感じた。
- ・情報交換をして他地域の活動の様子を知ることで視野が広がった。参考にできるところや自分たちの活動に生かせるものはどんどん取り込んでいこうと思った。
- ・悩みを聞いてもらい、話をしているうちに解決策が出てきた。
- ・子どもたちのためによりよい地域・学校にしていきたい。そして、地元に残りの若い子が残ってくれたらいいと思う。
- ・地域の学校や子どもたちに積極的に関わる仲間と出会い、元気もらった。

